ふるさと農園

10月の農園　秋の花園

10月の農園は、華々しさはないが静かに花が咲いています。

キクイモの花は、背丈より高いところで菊に似た花が咲くのでキクイモと言うのでしょうか。

秋を代表するコスモスは一際明るい。シソの花は「穂ジソ」と言われます。ラッキョの花をご存じですか。秋ナスやオクラは最後の力を出して咲いています。　Ｓ・Ｏ

会員だより

幻想的な夜を演出する〝灯露祭〟

富田の町は戦国時代に寺内町として栄えました。「灯露祭」はこうした歴史や遺構、文化を活用して町おこし活動をしている地元有志の集まり「けさたんと会」が主催した**“けさたんと会　２０１１秋のイベント”**の一つで、本照寺と三輪神社で開催されました。

子供たちが描いた絵を張った灯籠約４００個が境内に並べられ、夕暮れ時の５時に蝋燭に一斉に点火され、寺社の輪郭が夜空に浮かびあがりました。

昼間の「高槻ええとこクイズラリー」・「富田まるごと博物館」の参加者や地元の方々が、この幻想的な夜景を楽しみました。

本照寺では富田の酒粕でつくった「あやめうどん」、三輪神社では富田名物の「水まんじゅう」を味わう事ができ、秋の夜長を楽しみました。　Ｓ・Ｏ

“細川家の至宝展を観賞して”

細川家の至宝展は、京都国立博物館で二〇一一年10月８日～11月23日まで開催されています。良き秋の日「10月17日（月）」、館の閉館日にゆっくりと観賞する機会を得ました。東京・目白に位置する永青文庫は、旧熊本藩主であった細川家が所蔵する宝物を永く護り伝えていくため、昭和25年（１９５０）、第16代当主の護立によって設立されました。その所蔵品は「文武両道」の細川家にふさわしく、バラエティに富んでいます。そこに護立によるあらたな収集品も加わり、コレクションは８万点を超えます。細川家は京都とのゆかりが深く、初代藤孝（幽斎）が織田信長のもとで頭角をあらわしたのが、長岡京市の青龍寺城（勝龍寺城）を居城としていたときです。また、菩提寺も京都・建仁寺の塔頭永源庵（現在の正伝永源院）でした。

永青文庫の名は、両者から最初の一文字をとったものです。細川至宝展は、仏像、武具、馬具、絵画、衣装、茶道具、その他諸々、いろいろあって、期待した以上の量と素晴らしさ、賑やかさでした。

細川護熙氏はこれだけ多くの美術品が保存管理出来たのは、歴代の方々の努力があった事と戦災に遇わなかった事ですと言われています。Ｓ・Ｏ

とけいそう

気分は最高！！　イタリア十日間の旅

映画俳優、織田祐二主演のアマルフィを観た時、このアマルフィの街があまりにも美しく感動してしまったので、私もこのアマルフィの街を自分の足で歩いてみたい、イヤ！　絶対歩きに行こうと何故か心に決めていた。

長年務めた仕事を退職し、自由な時間を持て余していたころに、丁度その機会に恵まれたので、7月22日友人と二人機上の人となった。

イタリアにはミラノから入り、ジェノバァ、ベェネツィア、フィレンツェ、ローマ、ナポリ、ローマと北から南へ縦断の旅だった。　海外旅行はこれで５回目だが、こんな失敗は初めてである。最初に泊ったホテルに一番大切なパスポートを忘れてバスに乗ったのである。部屋を出る時、友人が忘れ物ない？と声をかけてくれたのに、ない！と答えバスに乗った。バスが走り出し添乗員さんが「おはようございます。パスポート持っていますか？」のひと声に全身に電流が駆け巡った。「アッ、すみません。パスポート枕の下に忘れてきました。」さぁそれから大騒動。私の頭の中はパニクッテしまうし、心臓はドキドキ、パクパク、パスポートと一緒にいれてあるクレジットカードは、日本円のお札５万円は、まだあるかしら？ホテルの近くで大型バスを止め、28名の仲間達に待っていてもらい、添乗員さんと二人ホテルの部屋までダッシュ。気持ちは焦るばかりで、腰が抜けたような感じで思うように走れず、とても情けなかった。

初めて海外旅行に出かける時息子に「パスポートは命の次に大事やから、絶対失くするなよ。日本に帰ってこられなくなるぞ」と念をおされていたので、私はパスポート入れの袋に入れ、首からぶらさげ、お腹の前でしっかり持っていたのに、なんとその日はシャワーをした後、ベッドの枕の下に置いたのである。

私の部屋はまだ、掃除に入ってなかった。良かったと思った瞬間ベッドの枕をめがけて一目散。あった。あった。良かった。　Ｈ・Ｋ